

第14回会津若松市環境大賞 受賞者一覧（各功績）

部門名	個人/団体	氏名・団体等名	選考結果	
環境大賞	団体	向山公園を育てる会	平成20年に会員12名で「向山公園を育てる会」を発足し、以降、湊町西田面地区内の向山堤周辺の環境整備に努めている。会発足当時の向山堤は人が立ち入ることができない荒れ果てた原野と化しており、これを、会員たちが農耕器具や重機等を持ち寄って、3ヶ月以上かけて地道に開拓。翌年にはソメイヨシノの苗木を植樹し、その後公園周辺の草刈や、隣接する沼地の手入れを続け、現在では、春に花見をしたり、沼地で釣りができたりするなど、地域の住民に愛される公園へと生まれ変わった。劣悪な環境だった原野をゼロから開拓し、人が集える場所へと大きく改善させた会員の姿は、他の地域へ与える影響も大きく、また、市の模範になるものと高く評価できる。	
環境賞	エネルギー部門	個人	田中 ふみ子	20年ほど前から自宅敷地内で植栽を始め、現在では100種類以上の花々が、日々、道行く人々やドライバーの目を楽しませている。また、昼間、太陽光で充電したソーラーライトを、夜間、自宅の廊下やトイレの照明として活用したり、雨水をじょうろなどのために、庭の花々の散水用に活用したりと、省エネ・省資源に対する意識を高く持っている。 個人の活動ではあるが、少しでも環境のためにと地道に取り組みを続けており、これらの活動が各家庭に広がれば、地球温暖化対策の一助になるものと大いに期待される。
	リサイクル部門	団体	飯寺19号 緑地化愛護会	平成11年ころから活動を開始し、門田町の飯寺地区内にある19号及び24号緑地、阿賀川河川敷沿いの花壇の美化に努めている。月2回程度草むしりや花つみを実施し、近年は、これ以外にも町内で手付かずのままだった花壇の整備に着手し、今なお活動の範囲を広げている。活動を行うなかで大量に発生する刈り草は、本来ごみに出されてしまうが、これらを緑地の一角に集め、翌年の植栽のときに活用するなどの会員の工夫が伺える。長年にわたり、地域のために環境活動に取り組む姿は、周囲の住民の環境意識の高揚に大きく貢献するものである。
	美化部門	団体	橋本花壇愛護会	旧湯川沿いの涙橋から上流約300mに渡り、花壇の植栽や草刈を行っている。当該花壇は平成8年に造成されたが、以後放置状態であったのを会員たちの手で立派な花壇へとよみがえらせた。現在は「春から秋まで花の絶えることのないように」を合言葉に、早春のうちから活動を開始し、季節ごとに咲く様々な花が付近を散歩する人たちの心を和ませている。 現在は、観光客が立ち寄る機会が多くなった涙橋の袂やキリシタン塚等にもプランターを設置し、ここでも季節の花々が訪れる人たちをもてなしている。会員56名が互いに協力しながら、広い河川敷に広がる花壇等の手入れを怠ることなく真摯に取り組む姿は、他の模範になるものと高く評価できる。
	環境教育部門	団体	会津若松市立 謹教小学校	児童会のエコ委員会と、給食委員会が中心となり、教室内の節電や節水、ごみの分別、牛乳パックの回収などを行っている。毎週金曜日には全てのクラスでエコチェックを行い、省エネ活動などの振り返りを行うなど、学校内での環境活動におけるPDCAサイクルを実践している。さらに、毎年、児童が各班に分かれて、校庭やその周辺道路、各地区のゴミ拾いを行い、地域全体をきれいにする美化活動にも取り組んでいる。 児童だけでなく、教職員も一丸となり、学校及びその周辺の環境改善に学校全体で取り組む姿勢は、地域住民に与える影響も大きく、評価に値する。